

入院

入院するというのは誰にとっても不安で動揺を起こすものです。 しかしながら、アルツハイマー病やその他の認知症の人にとっては特に苦痛な体験になることがあります。 自宅から慣れない環境への変化、異なる医療的治療によるストレスの増加、また苦痛が認知症の人を普段よりもさらに混乱させ、分別を失わせている可能性があります。 何が起こりえるかを知っておくことは、これらの変化を理解する手助けになります。 前もって計画を立てておくことが、全員にとって入院を少しでも容易にすることに繋がります。

入院の原因

アルツハイマー病の人たちの多くが、心臓病や股関節部の骨折など重大な健康問題も持っているため、病院でのケアが必要な場合があります。 その他の人々も、アルツハイマー病に関する症状のために病院でのケアが必要な場合があります。 入院 자체は身体の健康問題のためにあっても、患者がアルツハイマー病にかかっている場合は、このプロセスの多岐に渡って影響があります。 この入院患者は認知症であるということを、医師、看護師、その他この患者を介護する人々に必ず知らせましょう。

予定済みおよび予定外の入院

入院は予定されたものもあれば、予期しなかったものもあります。 医療的緊急状態であれば、認知症の人を救急治療室に連れていきます。 その場で治療して帰宅できる場合もあれば、そのまま病院に入院する場合もあります。 どんな場合であれ、備えがあれば役立ちます。

不必要的入院を避ける

- 処置、検査、治療が外来で行えないかどうか医師に尋ねましょう。
- 認知症の人が何日ほど入院するのかを尋ねましょう。
- 入院期間を短縮するため、入院前に検査ができないかを確かめましょう。
- 医師が他の顧問医師と相談するつもりかについて確認しましょう。 その場合、入院する前に顧問医師に会えるかどうか尋ねましょう。

予定された入院に備える

- 質問をしてください。 次の点について確認しましょう： 認知症の人の診断、処置の名称、リスクと利点、予測される結果、また予測される回復期間はどのくらいか理解しておきましょう。
- 処置および入院が、認知症の人の思考および行動にどのような影響があるかを医師と話し合いましょう。
- 麻酔が使用される場合、認知症の人の混乱のレベルにどのように影響するかについて尋ねましょう。

- 身体的、あるいは薬学的拘束の使用について尋ねましょう。拘束は患者の安全性を守る目的で行われますが、身体的負傷または独立性および尊厳を脅かす場合があります。
- できる限り個室をとりましょう。プライバシーは、認知症の人が落ち着くのに役立つ場合があります。
- 家族会議や電話会議で責任について話し合いましょう。例えば、入院前検査に誰が連れて行くか、手術の間誰が病院に泊るかなどです。
- 介護を分担するため、訪問時間を交代で取りましょう。

認知症の人にとって入院をできる限り容易なものにする

- 認知症の人に理解力があり、ストレスにも対処できる場合、入院について話し合いましょう。
- 認知症の人を、話し合いと決断に可能な限り含めるようにしましょう。認知症の人の生命維持治療、脳の献体などについての希望を記録しておくことを考慮しましょう。
- 病院の訪問に向けて認知症の人の準備をします。家を出る直前に、認知症の人に対し、あなたと彼（彼女）は病院で少しの間の時間を過ごすことを説明します。説明はシンプルにしましょう。認知症の人が抵抗する場合、病院訪問を前向きなこととして話しましょう。たとえば、あなたと医師が問題を解決するのに、彼（彼女）の助けがいるのだと説明します。
- 認知症の人が、家から離れるのを快適に思えるようにしましょう。写真、お気に入りの毛布、安心感を与える物などを持っていきましょう。

予期しない緊急治療室あるいは来院に備える

- 緊急用キットを事前に用意しておき、緊急治療室への来訪あるいは予期しない病院滞在に備えましょう。次の内容を参考にしてください：
 - 現在摂取している医薬品と食物アレルギーのリスト
 - 事前指示書のコピー
 - 保険情報
 - 医師の名前および電話番号
 - あなたが用紙類に記入している間に、認知症の人と同行できる友人あるいは家族の名前と電話番号
 - 認知症の人の症状と特別なニーズを説明したノート
 - 保存食のスナック
 - 着替え
 - 普段使用している場合は、多めの使い捨てオムツ
 - 症状および医師や看護師の指示を書き留める紙とペン
- 忍耐力を持ちましょう。緊急治療室では待ち時間が長いことがあります。
- 緊急治療室の職員が認知症の人と理解し合うのを助けましょう。
- 認知症の人を元気づけ、安心させてあげましょう。

認知症の人が病院でできる限り快適でいられるようにする

- 認知症の人とできる限り一緒にいるようにしましょう。認知症の人が朝起床する際、投薬が行われる際、カテーテルが挿入される際、医師が立ち寄る際などにできるだけ部屋にいるようにしましょう。
- 自分がいられない時間について、認知症の人に伝えましょう。例えば、認知症の人が読むことができる場合、ノートに「お母さん、お母さんは転んで足の骨を折りました。静かに休んでいてください。」と書いておきます。度々電話したり、聞き慣れた音や声を録音したテープを残しておきましょう。
- できれば、あなたがいられない場合に認知症の人と24時間常に一緒にいられる人を雇いましょう。

病院職員と協同する

- 認知症の人と会話する病院の職員が、この患者はアルツハイマー病あるいは他の認知症にかかっているということを理解していることを確認してください。在宅時に比べ認知症の人が一層混乱している場合、それも職員に伝えましょう。
- 認知症の人の個人的な習性、食事および食習慣の好み、また摂取している医薬品についての情報を提供しましょう。
- 認知症の人についてのガイドの一覧を病院職員のためにプリントしましょう。例えば、「テレビをつけたまま一人にしないでください。混乱します。」あるいは「2-3時間おきにトイレに連れて行ってください。そうしないと失禁します。」などです。
- 認知症の人に関する病院職員にあなたが提供する情報にはすべて、彼（彼女）の医療記録が含まれているようにしてください。
- 認知症の人が徘徊する場合は、職員に気を付けるよう伝えてください。認知症のための安全対策が取られるよう確認しましょう。
- 認知症の人が MedicAlert® +Alzheimer's Association's Safe Return®から用意できるようなIDプレスレットを着用していることを確認してください。

退院後の計画を立てる

- 医療従事者と協力して長期介護あるいは認知症の人の帰宅に向けて計画を立てます。
- 次の質問をしてください：
 - 手術の結果として、認知症の人はもっと疲れやすくなるか？
 - これまで以上の補佐が必要となる活動は何か？
 - 認知症の人がこれまでどおりの活動に戻れるまでにどのくらいかかるか？
 - エクササイズ、例えばウォーキングなどができるようになるまでどのくらいかかるか？
 - 痛みを感じるのはどのくらいの期間か、またそれを和らげる方法は？

- 訪問看護師あるいはその他の介助を頼みましょう。ソーシャルワーカーあるいはケアプランナーは、あなたの資力に見合った準備を支援することができます。
- 次項を含め、退院後に必要なことを理解しておいてください：
 - 医薬品—投薬量、摂取時間、副作用、およびいつ終了するか
 - 治療
 - 包帯、体の一部を高い位置に上げる、水分摂取と排尿、癌や腫れの監視などの特別処置
 - 緊急の兆候および誰に連絡するか
 - 医師との経過観察検診の予定
- 家族や友人に協力を求めましょう。

リソース

MedicAlert + Safe Return は、徘徊するアルツハイマー病の人および関連する認知症の人、またその他の医療的緊急事態にある人のための全国規模の 24 時間緊急応答サービスです。

詳細または登録フォームの入手については、地域の Alzheimer's Association あるいは 1.888.572.8566 までお問い合わせください。または、www.alz.org にてオンライン登録をご利用ください。

Alzheimer's Association は、アルツハイマー病の介護、サポート、そして研究において世界を率いるボランティア組織です。

2007 年 11 月 更新